第３４回市民自治推進委員会　都市調和部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和４年　８月２５日（木）　１８：００～１９：００ |
| 開催場所 | 市役所本庁舎　２階　第１委員会室 |
| 出席者 | (部会長)山下　克彦　（副部会長）荒川　昌伸(部会員)冨永　史人、千葉　茂、西尾　拓也(庁内委員)佐藤　智(事務局)大越　智輝、佐々木　健、松下　英冬(欠席委員)工藤　保秋、対馬　秀樹 |
| 議題 | ・市民に親しみのある新庁舎について |

【前回に引き続き、市民に親しみのある新庁舎にするための取り組みついて協議を行った】

（部会員）

　外構の敷地面積はどれほどなのか？

（事務局）

　詳細は決まっていない。

（部会員）

　設計の詳細が決まっていないとしても、敷地面積が分かればイメージがつくかと思う。

（事務局）

　現庁舎が約６，５００㎡であり、恐らく新庁舎も同等の規模の約７，０００㎡ほどとなると考えられる。また、建設予定地である旧陸上競技場の敷地面積は　約２８，０００㎡である。

（部会員）

　建設予定地の敷地面積の内、新庁舎や駐車場として使われる部分と外構とする部分の割合は決まっているのか。

（事務局）

　敷地面積約２８，０００㎡の内、新庁舎・駐車場と外構でおおよそ均等に分かれる予定となっている。

（部会員）

　新庁舎については２階建てであると示されているが、これも決定ではないのか？

（事務局）

　当初は３階建ての予定であったが、２階建てとしても十分な面積を取ることができる見込みとなり、現段階では２階建ての予定となっている。

（部会員）

　新庁舎を２階建てとしたことも敷地に余裕があるためであり、その点から考えると、建物内部よりも外構での取り組みの方が可能性が広がるだろうと感じる。

（事務局）

　部会員から寄せられたアイデアを元に本庁舎整備推進室と事前に打ち合わせを行った際、クラウドファンディングを利用して建物内部に銘板や手形等を取り付ける取り組みは、寄付を行った市民は親しみを持つことができるかもしれないが、寄付を行っていない市民は親しみを持ちづらいだろうという意見があった。そのような点からも、事務局としては外構において人が集まり、賑わいや笑い声が広がるような取り組みをする方が、市民の新庁舎への親しみに繋がるのではないかと考えている。

（部会員）

　「たくさんの人を巻き込めるような取り組みを考える」というポジティブな発想が重要だろう。また、複数のアイデアが出ているが、これらはあくまでも都市調和部会員から募ったアイデアであり、幅広い市民の意見も聞いてみたい。

（事務局）

　事務局としても、より多くの市民の方に親しみを持っていただくためには、幅広い意見を聞く必要があると感じていた。例えば市内の学生を都市調和部会に招き、若い世代の意見も参考にするというのはいかがか？

（部会員）

　私が勤めている学校は卒業後に登別から離れる学生が多い。学生の意見は新たなアイデアは出てくると思うが、現実性が伴うか懸念がある。もし学生から意見を聴くのであれば、まちづくりに意欲のある学生に参加してもらうべきだと思う。

（事務局）

　今後、設計事業者の担当者と意見を直接交える機会も設けられるかもしれない。

（部会員）

　タイムスケジュールとしては、いつ頃までに都市調和部会としての意見を集約すれば設計への反映に間に合うのか？

（事務局）

　今年中であれば反映が可能であると思う。

（部会員）

　期限があるならタイムスケジュールを設け、学生や業者を招く時期を決めた方が良いだろう。

（部会員）

　本題から少し離れてしまうが、行政が行う植樹は２０年後・３０年後を見据えたものとは言い難く、場所によって高木と低木を使い分けることもしていない。そのため伐採や剪定を行わざるを得なくなり、景観が良くない上に植物もかわいそうな状況となっている。新庁舎の設計に当たってはこのような点を考慮してもらいたい。

（部会員）

　市民自治推進委員会は行政へ意見を言うだけではなく、市民が自ら取り組む場であるため、自分たちでできることを考えるべきである。

（事務局）

　今のようなご意見は、８月３１日に開催される市民自治推進委員会全体会議で意見交換の時間を設ける予定であるため、そちらで貴重なご意見として受け取ることとしたい。

（部会員）

　次回の部会で配置や寸法の詳細な情報を示していただくことは可能か？

（事務局）

　設計に関しては日々変更が生じている状況であり、次回の部会で具体的なものを示せるかはわからない。

（部会員）

　詳細を把握できなければ判断できないアイデアもあるが、スペースをそれほど必要としないアイデアであれば現状でも検討を進めることはできるだろう。いずれにせよ、大規模な取り組みにはならないと思われるので、おおよその見積もりを元に検討を進めていけば良いと思う。

（部会員）

　敷地の南側の斜面は縄文時代は海岸線であった場所で、昭和４０年代から５０年代頃には砂鉄の鉱山にもなっていた。このような歴史的背景も利用できれば面白いのではないか。

（部会員）

　周辺では土器が出土したという話も聞いたことがある。

（部会員）

　昔から生活がしやすい場所であり、人が集うような場であったので、それを生かしたい。

（部会員）

　若い世代はＳＮＳを意識した視点も重要であると感じる。

（部会員）

　以前、宮崎県に旅行に行った際に観光バスが宮崎県庁に停車し、当時の東国原県知事の等身大パネルと記念撮影をするという場面があった。そのようなものでも観光資源となり得るため、登別温泉へ観光目的で来た人や、通りがかりの観光バスが新庁舎に立ち寄りたくなるようなスポットができれば良いと思う。

（部会員）

　そういった視点で学生の意見も必要かもしれない。

（部会員）

何らかの方法で学生の意見を聴いてみるべきであると思う。

（部会員）

　このような会議の場に学生が参加することで、登別市役所への就職を志望するきっかけにもなると思う。

（事務局）

　都市調和部会への学生の参加については、事務局から各学校へ打診する。

（部会員）

　若い世代の声を聴く機会は貴重であるので、ぜひお願いしたい。

●次回日程：令和４年９月最終週を候補とし、部会員や招聘予定の学生と調整を行った上で決定することとなった。